

What's new? —研究室探訪—

信州大学医学部人体構造学教室

福島菜奈恵

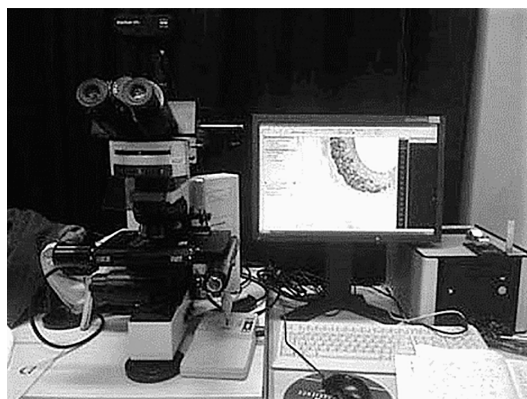
人体構造学教室の研究テーマは大きく二つに分けられます。一つは動物実験による神経解剖学的な研究で、もう一つは解剖体を用いた肉眼解剖学的な研究です。

### 1. 神経解剖学的研究

神経解剖学的な研究では、ラットやマウスを用いた動物実験を行い、様々な神経系における構造と機能の解明を目指しています。中枢神経系では、嗅覚の脳内伝導路であり、嗅球から嗅皮質への投射線維で構成される外側嗅索を対象とした研究を行っております。また、末梢神経系では、嗅神経・舌神経・顔面神経・舌下神経といった脳神経や、脊髄神経である坐骨神経を対象とした研究を行っております。様々な神経系を対象とした神経損傷実験を行うことによって、機能の維持および機能の回復に必要なニューロン数・神経線維数を、組織化学的手法を用いて明らかにする研究や、損傷の程度の違いがニューロン細胞死へ及ぼす影響について明らかにする研究等に取り組んでおります。ニューロン細胞死に関しましては、様々な神経系のニューロンについて、ステレオロジー解析を用いた神経細胞総数の計測も行っております。また、神経損傷後の機能的な回復を実現させるための研究にも取り組んでおり、将来的には、様々な神経系において、神経の再生および機能の回復に寄与することができればと考えております。

### 2. 肉眼解剖学的研究

肉眼解剖学的な研究では、解剖体（献体）を用いて、形態学的な研究を行っております。様々な関節において、関節内外の靭帯についての詳細な形態学的分類を行うとともに、それぞれの靭帯について、詳細な構造や機能を明らかにする研究を進めております。また、靭帯の付着部に関して詳細な位置を明らかにする研究や、各靭帯同士の関係性を明らかにする研究等に取り組んでおります。将来的には、この基礎的な研究結果の積み重ねによって、臨床的な治療に貢献することができればと考えております。また、ステレオロジー解析による神経細胞数の計測も行っており、様々な神経系の神経細胞総数を、ヒトにおいても明らかにしたいと考えております。肉眼解剖学的な研究につきましては、臨床の先生方と協力して遂行している研究もあり、これからさらに発展させていければと考えております。



ステレオロジー解析装置